



諸橋晋六先輩を偲んで

本多 義人
(1961年経・経卒)



諸橋晋六 先輩

去る6月23日諸橋晋六ソフィア会第6代会長(1947年経・経卒)が90歳と11か月で天に召されました。私が初めて諸橋大兄にお会いしたのは今から42年前のことです。

その年、今のオールソフィアンの集いがホテルニューオータニで行われ、実行委員の一人であった私とそのパーティー券を今は亡き伍堂先輩(初代経鸞会会長)に買ってもらいに伺った時、同じ三菱商事のマニラ支店長から戻られたばかりの諸橋さんのところにも行くようにと紹介して下さいました。早速一枚もって伺うとバカヤローと一喝、このような物を先輩のところ頼みに来るときは少なくとも10枚くらいはもってくるものだと言われました。

丁度その頃、渡辺慎介ソフィア会第5代会長(1941年経・経卒)から次期会長をどなたにお願いするか考えておくようにと言われていたので、早速、諸橋先輩のお名前を渡辺会長に申し上げたところ、すぐに諸橋さんに役員就任を打診するやうにとの命令がくだりました。

諸橋さんから無論、二つ返事で承諾を得て、その後すぐに青山高志ご意見番(1932年経・経卒)を交え渡辺、諸橋両先輩と4人で昼食会を僭越にも設営させていただきました。それからの諸橋先輩のソフィア会への熱い思いと献身的な協力は誰もが知るところです。もし私が何かソフィア会に貢献した事があるとすれば、この諸橋先輩をソフィア会に推薦した事で私の目に狂いはなかったと秘かに自負しています。

諸橋先輩は私にとっては兄でありときには親父のような存在で42年間バカヤロー、バカヤローと沢山の事を教わりました。彼はバカヤローをよく口にしましたが自分の気に入らない人や物に対して言ったのを聞いたことは一度もありません。自然や生き物をこよなく愛し、豪気に見えて人一倍繊細で臆病でいつも自分自身の言動に羞恥心と罪を感じていました。彼の三菱商事社長就任の時の言葉「私はガラッパチだが決して下品ではない。座右の銘は=穆として清風の如しである」は含蓄のある言葉として今でも忘れません。

経鸞会やキリスト教に対してはいつもバカヤローで「俺は上智で経済を学んだ記憶はない、俺は生粋の仏教徒だ」は口癖でした。でも伍堂会長率いる経鸞会には人知れず関心をもって見守っていたことと、そもそも上智に入学したのは受験の時キャンパス(当時はまだ修道院の雰囲気が色濃く残っていたことと思う)で見たカトリック神父がバイブルを読みながら静かに歩いている姿に感動したからだと言うことは事実です。だから彼のバカヤローは愛してるよ、好きだよの代名詞であり、その彼が臨終の床で洗礼を受けキリスト教徒として天に召されたことは当然の帰結と私は思います。もし天国にお酒やゴルフ場があれば今頃はバカヤローの伍堂先輩と大好きなお酒を酌み交わし、ゴルフに興じておられる事と思います。そしてお二人でソフィア会、経鸞会、母校の行く末をいつまでも見守って下さい。そして又時にはバカヤローと天の声をお聞かせ下さい。長い間公私共にお世話になり本当に有難うございました。

経鷺会会長ご挨拶と 100 周年記念事業のあらまし



皆さんこんにちは。経鷺会会長の上原隆一です。当会の 100 周年記念事業につきましては発起人をお引き受けいただいた方々、並びに会費を収めていただいている会員各位に改めてお礼を申し上げます。お陰さまで経済学部にて 100 周年記念の研究奨励金として 100 万円を寄付することができ、滝澤学長、山田経済学部長から経鷺会活動への最大の感謝と、賞賛の言葉をいただきましたことをご報告申し上げます。当会の 100 周年事業も来年 3 月まで続きますので、研究奨励金へのさらなるご支援を心よりお願い申し上げます。

さて本年の上智大学創立 100 周年記念事業は、学院、学部、ソフィア会そして私たち経鷺会がそれぞれの記念事業を計画しているため、混乱されている方々も多いのではないのでしょうか。

経鷺会総会が開催される 10 月 19 日のタイムスケジュールは次の通りです。

	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00
ソフィア会				全国代議員会	A	B	C	D	E			
経鷺会			① ② ③	(希望者は拡大東京大会に参加してください。事前申し込み制)								
A 拡大東京大会開会式 B NEXT100プロジェクト 各ワークショップ発表会 C 拡大東京大会全体会議 D 懇親会 E 懇親会2次会 ①経鷺会代議員会総会 ②講話 ③サンドイッチと飲み物												

文字が小さくて恐縮ですが、要点は次の通りです。

10 月 19 日

- 12:20 経鷺会代議員会総会 (11 号館 B1 第 2 会議室)
- 12:50 講話
- 13:30 懇親会 (サンドイッチと飲み物をお出します)
- 14:10 拡大東京大会がワークショップ発表会を挟み 17:20 まで (10 号館講堂)

上智学院主催の式典等とソフィア会主催の「オールソフィアンズ大祝宴」が開催される 11 月 1 日のタイムスケジュールは次の通りです。

	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00
学校法人上智学院主催行事												
記念ミサ	イナリ教会											
記念式典					東京フォーラム	←上智学院による招待者対象(ソフィア会から1000名)						
祝賀会					上智学院による招待者対象(ソフィア会から200名)→				ニューオータニ芙蓉			
上智大学ソフィア会主催(経鷺会共催)												
大祝宴							事前申し込み制1500名、会費10,000円→			ニューオータニ 鶴の間		
										(会費10,000円)		

大祝宴当日は母校でソフィア祭前夜祭が開催されており、久しぶりに母校で元気な学生の姿をご覧ください。詳細は、ホームページでご確認ください。“ソフィア大祝宴”で検索またはソフィア会ホームページからバナーをクリックしてください。気持ちのこもった企画が盛沢山です。100年に一度きりの大祝宴です。ソフィア会が総力を挙げて取り組んでいます。少しお洒落をしてニューオータニで集まりましょう。

発起人・募金者

9 月 10 日現在の発起人・募金者は以下の通りです。なお、前 44 号エコノミアン誌上、一部の方々の掲載もれがありましたことをご詫言申し上げます。

氏名	卒年	氏名	卒年	氏名	卒年	氏名	卒年	氏名	卒年	氏名	卒年
岩田博行	1953	石井 修	1959	戸川宏一	1963	守田 誠	1969	上原隆一	1976	北川弘文	1981
長浜聖二	1953	今岡嗣雄	1960	藤井統司	1963	青木九一	1970	小沢忠男	1976	百井俊次	1981
飯田 進	1954	小川晋一	1960	松下裕恵	1963	栗林次美	1970	武井眞一	1977	中西 徹	1982
末永能崇	1954	濱口吉右衛門	1960	柳本信一郎	1963	桑島 勉	1970	田村 隆	1977	東 和浩	1982
植竹 剛	1955	松本幸俊	1960	米澤公一郎	1963	佐藤武治	1970	成田眞一	1977	等々力信	1983
徳永英生	1955	木内秀明	1961	石渡成紀	1964	大塚 勉	1971	松本佳晴	1977	新見秀一	1983
中島貞夫	1955	友田留義	1961	大西健一	1964	北出高一郎	1971	山田 稔	1977	前嶋浩文	1983
平野正之	1955	三好 登	1961	加畑幸三郎	1964	戸川 清	1971	小國敏雄	1978	横田明彦	1983
池田敏行	1956	今岡幸雄	1962	竹内靖博	1964	那波三郎右衛門	1971	木下和子	1978	鈴木 努	1984
大槻清四郎	1956	大河原元晴	1962	池田賢吾	1965	三木眞弘	1971	鈴木恵子	1978	谷口達也	1986
古知朝彦	1957	酒井弥一郎	1962	服部綾子	1965	青柳雄助	1972	田村茂康	1978	野嶋康敬	1987
田中哲哉	1957	瀬沼國三郎	1962	野々垣健五	1966	飯田 収	1972	戸松卓治	1978	山口 敦	1988
堀江 宏	1957	山口 進	1962	和田 孝	1966	酒井和幸	1972	服部 勉	1978	角井亮一	1992
吉田 勉	1957	矢ヶ崎元信	1962	秋葉 哲	1967	服部克己	1972	別所公治	1978	清澤信彦	1993
飯田久治	1958	岩下謙一	1963	里田隆志	1967	庄村満寿夫	1973	松本正一郎	1978	柴田 謙	1995
川野克美	1958	牛込一郎	1963	原田和男	1967	池田道雄	1974	溝間良輔	1978	桑原清幸	1996
木村芳正	1958	太田 太	1963	富嶋克子	1968	酒井栄恵	1974	三輪一夫	1978	戸谷充宏	1997
小菅一三	1958	片山国義	1963	上原治也	1969	仲井一彦	1974	加藤康行	1979	原 智彦	1998
小林 悟	1958	滝澤豊成	1963	小泉基靖	1969	宮内 純	1974	東 昇司	1979	大塚 拓	2001
本多義之	1958	東郷 武	1963	栽松 修	1969	焼田 党	1975	八木信彦	1980	酒井淳史	2004

上智大学経済学会では、このたび「上智経済論集」第58巻第1・2号合併号を上智大学経済学部百周年記念号として発行いたしました（編集委員会委員長 鬼頭宏教授）。内容は名誉教授、現役教員の執筆した23論文から構成されています。ここに、上山経済学部長（当時）の巻頭言と目次をご紹介します。



100周年記念号によせて

一つの組織が、100周年（Centennial）を迎えるのはよほどのことである。それも、漫然と存続してきた日時ではない。ごく少数の知恵ある有志の活動で始まった教育機関が、どこに出ても恥ずかしくないユニバーシティと言える存在にまで、進化と発展を遂げながらの一世紀という時間は、そこに所属する大学人としても誇るべきだろう。上智大学経済学部は、1913年（大正2年）に大学本体が設立されたと時を同じく「商科」として誕生し、この100年の歴史を上智大学そのものと共有してきた。その意味では、本学の知と精神の中心に常に寄り添うがごとく存立してきたと言ってもいい。

本書は、この記念すべき年を祝うことを目的とし、本学部で現役として研究・教育に携わっている教員が、すでに退職された名誉教授のご協力も得て、それぞれの分野の研究成果を持ち寄ることで、上智大学経済学論集の特別号を編んだ論文集である。経済学科と経営学科という二つの異なるディシプリンにまたがる学部の特質を反映して、金融・公共政策・都市経済・開発経済・国際経済から経済史や統計学に至るまで、経済学という学問の全般を網羅し、また、経営戦略論・国際経営論・労務管理論・イノベーション論・マーケティング・ファイナンス理論といった、経営学の主立った領域をカバーする浩瀚な論文集となった。若手の研究者から熟達の域に達した長老の碩学まで、総計23の論文を収録するに至ったことを心から多としたいと考えている。

本学部が記念論文集を発行するのは、「創立50周年記念号」（第9巻2号、1962年12月）、「70周年記念号」（1985年3月）、「75周年記念号」（第33巻第2号および第34巻1・2号合併号、1988年3月、89年3月）について、これで4度目である。記念号の発行は、その時々を経済学部の状況を表していよう。高度経済成長のはじまりを予感するかのように編纂された「50周年記念号」を嚆矢とし、80年代の2つの論文集は、後にバブル経済と呼ばれるようになった、日本経済のまさに絶頂期に相次いで出版された。いま振り返れば、その後大きな記念の論文集を編むことに、われわれがいささかの躊躇いを抱いていたとすれば、巷間言われる「失われた20年」の経済的停滞の時代と重なっていたからだろうか。それぞれの教員は、所属する学会や海外の研究機関において精力的な教育・研究活動を続けている。しかし、100周年という記念の年を「研究論文」の編纂という形式で共に祝いたいと思うようになったのは、停滞の時代の断末魔のような政権交代の呪縛がようやく終わりを告げ、経済と時代の新たな節目の到来を予感しているからなのかもしれない。

日本経済にとって試練が続いたこの20年間は、上智大学経済学部にとっては大きな変化の時代でもあった。それは二つの事柄に集約される。第一に、大学が定めた退職年齢の引き下げを契機に始まった教員の大幅な若返りであり、いま一つは、新任人事の採用に完全公募制を導入したことである。とくに後者は、上智大学のどの学部でも実行されていなかった新機軸であった。このことによって、学部の研究と教育の水準は、かつてないほどの高みに登ることができた。正直に記すならば、記念論文集は、われわれ研究者にとっては理想的な研究発表の場ではない。それにもかかわらず、ここに参加することは、知識の世界に生きることを生業とする、われわれ教員の責務と矜持の表れだと受け取っていただけると幸いである。

苦難の20年の後に未曾有の震災を経験した我が国は、もはやキャッチアップ型の経済を完全に脱し、本格的な高度知識基盤社会に突入している。本書が、そのような新しい時代への一つのオマージュとなればこれに勝る喜びはない。またこの機会に、つねづね多大の支援をいただいている、経済学部同窓会の経覧会をはじめ多くの関係者に感謝の意を表するとともに、今後も一層のご支持を賜りたくお願い申し上げる次第である。

2013年1月吉日記す

上智大学 経済学部長 上山 隆 大



エコノミアン読者の皆様へ：

上記「100周年記念号」を経済学部のご好意により希望者に贈呈します。下記に申し込んでください。送料のみご負担ください。先着200名まで。

1. 申し込み先：tamura@sophia.jp 住所、氏名、卒年明記
2. 送料：同封の「〒払込票」で会費（3,000円）に400円追加してください。（以上）

上智経済論集 第58巻 100周年記念号 目次

(頁)

- * 第2バチカン公会議と解放の神学に基づく世界の平和…………… 山田経三 1
(キーワード: カトリック教会、第2バチカン公会議、解放の神学、世界の平和)
- * マンション建替え決議についての理論と実証…………… 山崎福壽、瀬下博之、定行泰甫 7
(キーワード: 区分所有法、マンション建替え、建替え決議、絶対多数決、コンドミニアム法、解消決議)
- * A Note on the Distinction Between Two Market Conditions in Japanese Health Care Market:
Excess Demand vs SID …………… Ken Aoki 23
(キーワード: Market Condition, Supplier-induced Demand, Excess Demand)
- * 通商政策は地球温暖化対策として有効か?
—不完全競争産業における国境調整措置とカーボン・リーケージの分析—…………… 蓬田守弘 29
(キーワード: 地球温暖化対策、国際貿易、国境調整措置、不完全競争)
- * 家庭部門のエネルギー需要の要因分析…………… 岡川 梓、日引 聡 43
(キーワード: エネルギー消費関数、CO₂ 排出量削減、要因分析)
- * なぜ電気料金値上げは受け入れられないのか?…………… 川西 諭 51
(キーワード: 市場メカニズム、公平性、参照基準点、損失回避、善意)
- * おもしろ経済うつくし数学…………… 竹田陽介 61
(キーワード: バブル、一般均衡理論、合理的期待形成、比較静学、フィリップス曲線)
- * The Impossibility of a Fixed-step Anonymous Extension of the Catching-up Criterion:
A Re-examination …………… Kohei Kamaga 73
(キーワード: Social Choice Theory, Intergenerational Equity, Catching-up Criterion, Fixed-step Anonymity, Pareto Axioms)
- * A Note on the Generalization of Utility Maximizing Problem in
Optimal Stopping …………… Aiko Kurushima and Katsunori Ano 87
(キーワード: Optimal Stopping, Secretary Problem, Utility Maximization)
- * 日経225株価指数ボラティリティの金融危機時における
HARモデルを用いた構造変化の分析…………… 竹内(野木森)明香 95
(キーワード: ボラティリティ、高頻度データ、日経225株価指数、HARモデル)
- * 東アフリカ・ケニアの園芸作物及び切り花産業の隆盛:
持続可能な経済発展の観点から…………… 濱田壽一 109
(キーワード: 発展途上国、貧困、人口増加、水文学、水消費、環境問題、持続可能な開発、グローバリゼーション、
花卉産業、ナイヴァシャ湖、NGO)
- * Indian Economic Policies Towards Inclusive Growth …………… John Joseph Puthenkalam 133
(キーワード: Indian Economy, Five Year Plans, Mahatma Gandhi National Rural Employment Guarantee Act (MGNREGA),
Right to Education Bill (RTE), & Inclusive Growth)
- * 災害シミュレーション
—文明成熟局面における人口と環境—…………… 鬼頭 宏 159
(キーワード: 成熟社会、飢饉、疫病、出生抑制、人口停滞)
- * 私益と公益のはざま: イノベーションと知識生産における二つの秩序…………… 上山隆大 171
(キーワード: シリコンバレー、イノベーション、遺伝子組み換え、大学研究の特許化、スタンフォード大学、利益相反)
- * 企業=資源観の発展過程: 知識の社会的構築プロセスとしての考察…………… 網倉久永 187
(キーワード: 知識の社会的構築、支配的言説、企業=資源観、動態的能力、Social Construction of Knowledge,
Dominant Discourses, Resource-based View of the Firm, Dynamic Capability)
- * イノベーション研究における分析レベルの問題…………… 小阪玄次郎 209
(キーワード: イノベーション、分析レベル、技術パラダイム、急進的イノベーション、多様性、創造性)
- * 伝統産地の変貌と企業家活動
—有田焼と信楽焼の陶磁器産地の事例を中心として—…………… 山田幸三 219
(キーワード: 伝統産地、分業構造、企業家活動、産地のヘゲモニー、競争の不文律)
- * オーストラリアの大都市圏における日系企業設立をめぐるコンテキスト…………… 細萱伸子 237
(キーワード: 日系企業、オーストラリア、ニューサウスウェールズ、ビクトリア、コンテキスト)
- * 日本企業の相互依存的投資行動と中国進出
—自動車部品メーカーの対中投資—…………… 竹之内秀行 253
(キーワード: 相互依存的投資行動、対中投資、不確実性)
- * 電力取引市場における供給力確保とコールオプション…………… 石井昌宏 265
(キーワード: 電力取引市場、コールオプション、非協力ゲーム)
- * ソーシャルゲームにおけるユーザーの心理特性と課金行動の関連性について…………… 新井範子 277
(キーワード: フリーミアム、ソーシャルゲーム、課金)
- * 新規ブランド構築における消費者の感情の役割…………… 杉谷陽子 289
(キーワード: ブランド、態度、認知、感情、クチコミ、ブランド・アタッチメント)
- * 消費者意思決定モデルにおける動機づけメカニズム…………… 杉本徹雄 299
(キーワード: 消費者意思決定モデル、動機づけ、Nicosia、Howard & Shethモデル、
Engel, Kollat, & Blackwellモデル、Bettmanモデル)

上智大学創立 100 周年に寄せて

三木 眞弘 (1971年経・経卒)

上智大学創立 100 周年、経済学部創設 100 周年に際し、エコノミアンへの寄稿という機会、身に余る思いです。想起こせば、約 20 年前日本に本格的に根を張り、そしてその年の銅祝を機に経済学部同窓会である経鷺会との繋がりができ、当時経鷺会会長で在られた今は亡き伍堂さんのお手伝いをさせて頂いたのがきっかけで、現会長、上原さん、歴代会長の、川野さん、本多さん、柳本さん、戸川さん、そして会の皆さんと親交を得ることが出来たのは自分にとっての欠かせない素敵な資産です。想起こせば、1966 年上智の門をくぐり、人間としての素養、公平、公正さ、強い倫理観、そして“他者のために、他者と共に生きる”の精神を自身の心の中に醸成してくれた母校への想いは、皆さんと同様変わりません。1969 年休学し、1 年間の北米／中米への放浪の旅は、のちの自身の人生観を 180 度転換させるほどの影響の大きいステップでした。それが機会となり、アリゾナ大学院に進み、卒業後アメリカにて企業に入り、同僚のアメリカ人達と、まさに“叡智が世界を繋ぐ”企業活動の一端を担いながら世界を飛び廻りました。上智で学んだことは普遍で、自身の勤めたアメリカの企業文化の中に織り込まれているのを感じた時、若き上智の同胞にも、そんな機会が与えられんことを祈りつつ、現会長の上原さん、小國さん、秋元さんとともに、在校生とのネットワーク、SophinasNet(経鷺会の分身)を形成しました。



そして 17 年間、ワイン会、その他の集まりを通し、ようやく実が育ち、今では、若きソフィアンが、ソフィア祭の中核として、又 100 周年記念事業などにボランティアとして活躍しているのを拝見し、嬉しいかぎりです。自身の母校であるアリゾナ大学にも、又、長く住んでいたテキサスの大学にも毎年数名が上智から交換留学生として巣立っています。彼らも又、“他者のために、他者と共に生きる”の精神で日本、世界で羽ばたいていくことを切望します。

これからも、次の 100 年に向けて、上原 経鷺会会長のリーダーシップのもと、上智の叡智を世界に繋いでいこうではありませんか。そして 11 月 1 日のオールソフィアンズ大祝宴にてお会いできることを祈っております。Lux Veritatis! Sophia.

上智大学の経鷺会をモデルとした学部学科同窓会設立の推進について

伊達 万壽夫 (1977年経・営卒)

今年は、上智大学創立 100 周年の年にあたり、上智学院は 11 月 1 日に東京国際フォーラムに 5,000 人以上の招待客を迎え、盛大に記念式典を開催すると聞いております。また、我が経済学部も学部開設 100 周年記念行事として、9 月 21 日に記念講演会並びにシンポジウムを開催いたします（この記事は次号に掲載いたします）。

いま上智大学では、創立 100 周年記念にあたり学部学科の同窓会設立を積極的に推進する動きがあります。この動きの原点は、もちろん経済学部同窓会である「上智大学経鷺会」にあります。ソフィア会もこの方針を受け、従来の各種・地域ソフィア会とは違うカテゴリ団体として、新たに学部学科同窓会の会則・細則を整備するなど設立支援やサービス支援をする準備をいたしております。

上智大学経鷺会は、柳本信一郎 (1963年経・商)、戸川宏一 (1963年経・商) 両元会長のもと、持続可能な同窓会活動をめざし会費管理システムの構築・WEB サイト開設・理念およびミッションの明確化を進め、適切な予算執行、適時な情報発信、具体的な活動方針を実現してきました。さらに、上原現会長のもと、この方針は継続され、重要なミッションを実現してきております。

なかでも、母校および経済学部の発展と学部学生に寄与する意味から、経済学部学生に対する奨学金制度を確立してきた点があげられます。経鷺会は、経済学部教授陣と連携して、4 年前から毎年総額 50 万円を（教授陣が選んだ 5 人の学生に対して）研究奨励金として寄贈してきました。この活動は、皆さんの会費や心のかもったご寄付なくしては実現できておりません。なお今年の 6 月、上智大学創立 100 周年記念に当り、経鷺会の「100 周年記念事業」にご賛同いただいた発起人各位の寄付及び会費をあわせて、総額 100 万円の研究奨励金を 10 人の経済学部学生に寄贈させていただきました。

上智大学は、私たちの上記活動を高く評価し、経鷺会をモデルとして滝澤学長自ら先頭に立って学部学科同窓会の設立を推進しようとしております。

今後も、経鷺会の発展のために、皆様のご支援・ご協力を強くお願い申し上げる次第でございます。皆様のご支援が、優秀な経済学部学生を社会に送り出すうねりになります。



監査法人の繁忙期の変化と夏休み

百井 俊次 (1981年経・営卒)

経鸞会の監事を担当しております百井です。経済学部卒業生の皆様、日頃より同窓会の活動に御理解、御協力を賜りまして、心から御礼申し上げます。

私は卒業以来、現在まで監査法人に勤務しております。監査法人の業務は主に上場会社の監査ですが、世界経済の情勢等に合わせて、会計・監査制度が毎年のように改正されており、その中で2008年4月1日から上場会社を対象に四半期報告制度がスタートしました。

これは、3か月ごとに会計報告を求めるものです。このため、監査法人の繁忙期も大きく変わってしまいました。3月決算会社では、9月中間決算監査期間（10月から12月）と3月本決算監査期間（4月から6月）が繁忙期でしたが、四半期報告制度のため、3か月毎に繁忙期がやってきます。特に3月の本決算監査がやっと終わったと思っている矢先に第1四半期の6月決算が始まり、8月14日までに上場会社の四半期報告書の提出にあわせて、報告書のレビューを実施しますので、一息つける余裕がありません。

この制度の導入前には、8月は比較的余裕があり、夏休みもお盆（8月13日～15日）をはさんで確保できていました。導入後は、上記のとおり、お盆前には休みが取れなくなりました。あわせて、3月決算監査を考慮し、この期間の4月の土曜日は第1週を除き、勤務日となり、5月のゴールデンウィークも通常勤務日扱いとなり、8月のお盆明けが法人の夏休暇となりました。

従いまして、第1四半期のレビューが終わりますと、お休みを頂くことになります。私も例にもれず休暇を取り、ハワイに飛んで行きました。少しアクティビティーでもしようかと思っておりましたが、出発前には計画する暇もなく、現地で適当なツアーに参加すれば良いと決めこんではみたものの、思いのほか疲れていて、毎日のほとんどをホテルのプールサイドにあるブルメリアの木の下で寝て過ごしておりました。勢い、楽しみの中心は食事となります。特に夕食だけは、あちこち出かけました。そんな中、昼食のために、ホテル近くのラーメン屋に行きましたところ、一緒に列に並んだ日本人の紳士にラーメンを御馳走になるという出会いなどもあり、寝てばかりのハワイでの夏休みも忘れられない休暇となりました。これからハワイに来るたび、その紳士のことを思い出されることでしょう。



左から百井(筆者)、長井氏、松本氏

朝焼けのmatterホルン

池谷 誠司 (1962年経・経卒)

2012年6月26日から7月3日まで、JTB「スイス・ベストハイライト8日間」のツアーに一人で参加した。スイスは23年前の9月に出張の帰途、ツェルマットに2泊して観光した懐かしい思い出がある。

以下は今回のスイス紀行のあらましである。

6月26日(火)「旅立ち」

成田空港～ミュンヘン・メルキユールホテルまで全日空で。

6月27日(水)「ミュンヘン～マイエンフェルト～サンモリッツ」

ホテルを8時に出発した大型バスは262km先のマイエンフェルトに向けて、すぐに高速道路に入り走り出した。バスは順調に走行して人口36,000人の小国リヒテンシュタインからオーストリーとの国境を越えて、13時過ぎに目的地のマイエンフェルトに到着。

ここは「アルプスの少女ハイジ」の舞台となった人口2,400人程の小村で、ハイジの家博物館、ハイジの泉などを見物する。ここからバスは標高2,284mのユリア峠を経由して午後5時過ぎにスイスを代表する高級リゾート地サンモリッツ(1,775m)に到着した。サンモリッツ駅から有名な「ベルニナ特急」に乗車してベルニナディアボレッツァ駅まで45分間の列車の旅を味わった。この特急はクール～サンモリッツ～テイラーノを結びイタリアまで接続しているとのこと。帰路はバスでサンモリッツに戻り、古風な建物が特徴な「ゾンネ・ホテル」の夕食を堪能した。

6月28日(木)「サンモリッツ～ツェルマット」

今日も朝から快晴で9:15の銀河特急に乗るために駅までバスで移動する。この駅からツェルマット駅まで約290kmを8時間かけて走る(時速36km)というから銀河鈍行の呼称がふさわしいのでは……。本日の予定ではサンモリッツからディッセンテス駅まで140kmを車窓の景色を見ながらランチを楽しむという趣向である。銀河特急の目玉の一つである高さ71mのランドバーサー橋は列車が走り出してから





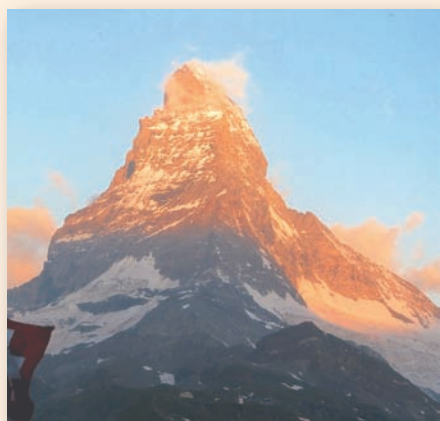
約1時間後に通過する。満員の観光客が車窓にしがみついでシャッターチャンスを狙う。日本だったらこの橋上で数分間は臨時停車するのだからと思った次第。この特急の最高地点である2,033mのオーバーアルプバスヘーエへは手前で下車したので行けなかったが、バスに乗り換えて2,032mのオーバーアルプ峠越えは眼下にスイスの牧場風景を楽しむ事ができた。1時間20分後にバスはフルカ峠を越えてローヌ氷河を見下ろせる場所で停車し、氷河をまたいで1枚写真を撮った。この場所から70km離れたツェルマットの「ホテル・アルペンホフ」に到着したのは20時近く。

6月29日(金)「ツェルマット～ゴルナーグラート～ツェルマット」

ツェルマット(標高1,620m)から登山電車で33分でゴルナーグラート展望台(3,089m)に到着し、名物のバーナード犬を入れてグループ写真を撮る。さらに少し登ったところからイタリア方面にマッターホルン(4,478m)、ブライトホルン(4,160m)、リスカム(4,527m)、モンテローザ(4,634m)の名峰が望まれた。今回のツアーでもう一つの楽しみは「絶景ハイキング」であった。41名を2班に分けて専門のガイドが案内してくれる。この日はゴルナーグラートからひと駅下ったローデンボーデン駅から次の駅のリッフェルベルクまでを1時間40分ほど散策した。

この日の午後この旅行で忘れる事ができない出来事が起こった。このホテルの前庭・テラスで丸テーブルを囲んで楽しいランチが終わった時、突然、ツアーフレンドK夫妻のご主人(74才)がその場に倒れ込み意識がなくなった。居合わせた外国の男女の医師の心臓マッサージを受けたり、ヘリコプターを呼ぶなど大騒動。結局ヘリでジュネーブ近郊にあるシモンの病院に運ばれた。4年前に心臓のバイパス手術をされ、医師の了解のもとにこの旅行に参加されたとの事だが、高度2,000m以上での活動は心臓に負担がかかるのだろうか?その後、我々より1週間遅れて帰国されたとの便りがあった。この事件のあと登山電車でツェルマットに降りて、夕食まで自由時間があつたので、市内の中心地にマッターホルン博物館を訪れた。

6月30日(土)「ツェルマット～シャモニー～ラボオー～インターラーケン」



朝6時少し前、カーテンを開けてベランダに出ると、目の前に雲一つない朝焼けのマッターホルンが飛び込んできた。早速カメラのシャッターボタンを押した(写真)。ツェルマットにはガソリン車は入れないので一駅前のテーシュまで電車で移動し、ここから144km離れたフランスのシャモニーまで2時間40分のバスの旅が始まった。

ここシャモニー(標高1,035m)はモンブランへの入り口の山村で冬はスキー客、夏は登山客の基地として人気の高い町とのこと。シャモニーにバスが着くと直ぐにロープウェイを乗り継いで一気にエギュー・デュ・ミデイ展望台(3,842m)まで昇る。外のベランダは風が強く、気温も2度ほどに下がりがかなりの寒さであった。雲の合間に見えるモンブラン(4,810m)を背景にカメラのシャッターを押してもらった。お昼はシャモニーの和風レスト

トラン「さつき」製のおにぎりランチをロープウェイの下車駅の出口で食べた。

午後3時45分にシャモニーの町を出発したバスは100km離れたレマン湖近くのラボオー地区のワイナリーに向けて移動した。スイスのぶどう畑は南側の傾斜地で栽培され、全て手作業なので生産量が少なく輸出はされていない。訪れたワイナリーは家族で経営しており、4種類のワインを試飲。この中で2年前に仕込んだ白ワインを1本(約2,000円)購入して日本へ持ち帰った。この日はインターラーケンにあるカールトン・ヨーロッパホテルに投宿した。

7月1日(日)「インターラーケン～グリンデルワルト～ベルン～チューリッヒ」

この日は最大のハイライトであるユングフラウヨッホ(3,454m)まではインターラーケン・オスト駅から登山電車を3回乗り継いで登っていく。ラウターブルンネン～クライネ・シャイデック～ユングフラウヨッホの順で、最後は高速エレベーターでスフィンクス展望台(3,571m)に着く。この展望台からはアイガー(3,970m)、メンヒ(4,107m)、ユングフラウ、ブライトホルン(3,785m)と共にアイガー氷河などが望まれた。

このツアー2回目のハイキングがアイゲークレチャー～クライネシャイデック間2.5kmを1時間30分かけて行われた。高度2,320mから2,061mまでアルプスの花を楽しみながら下る趣向である。スイスの三大名花はエーデルワイス、アルペンローズ、リンドウで、時期尚早のエーデルワイス以外はきれいに咲き誇っていた。

楽しいハイキングを終えて、スイスの首都ベルンへ向かった。ベルンでは「バラ公園」、「熊公園」、



「時計塔」、「大聖堂」などを見物。ベルンから123km離れたチューリッヒまでは途中の渋滞もあり、到着が夜9時過ぎとなった。

7月2日(月)「チューリッヒ～ルツェルン～ミュンヘン」

いよいよ「スイスアルプス・ツアー」の最後の日。朝の4時前に目が覚め、カーテンを開けると大粒の雨がホテル隣の建物の屋根を打ちつけていた。チューリッヒでは1時間ほど「大聖堂」、「聖母聖堂」などの観光が予定されていたが、降雨のため、ほとんどバスの中からの見物であった。ここから55km離れた最後の観光地ルツェルンへ向かい9:35に到着。この町は中世の面影を残しており、カペル橋、ライオン記念碑、旧市街地を歩いて見物した。

ここから330km離れたミュンヘンへは途中オーストリーで国境を越えてバスは走り、21:00発の全日空機に搭乗して旅は終わった。(以上)



ファカルティとの懇親会

2013年6月26日(水)秋葉原にある「和食高むら天空別館」にてファカルティと経鷺会役員との懇親会を開催しました。お招きしたのは4月から新任の山田幸三経済学部長、日引聡(ひびきあきら)経済学科長、西澤茂経営学科長の3氏です。

賑やかなパーティに欠かせないものはシチュエーション、美味しい料理とお酒、メンバーと思います。高層階にある天空の景色に見とれ、高村シェフオリジナルの新鮮野菜を生かした和食を味わい、話題の豊富な教授方とグラスを持って語り合えばあっという間に時は過ぎました。そして次回は経鷺会から研究奨励金を授与された学生やOBも招いてより華やかな会を目指そうということで一致しました。

最後は恒例の上原会長のエールと校歌で無事お開きを迎えました。我々経鷺会と経済学部のつながりは益々深まっていくことを予感させる楽しい会でした。



経鷺会ゴルフコンペ

3月20日の経鷺会ゴルフコンペは、戸川名誉顧問がヨーロッパ出張のため残念ながら欠席でしたが、本多名誉顧問、秋元元副会長、ソフィア経済人倶楽部からは蟹瀬さんご夫婦にも参加いただき、強風のなか千葉県柏市の藤ヶ谷カントリークラブにおいて無事に終了致しました。



何と！伊達副会長が優勝という実に面白くない結果となりました。

2位田村、3位本多さん、4位秋元さん、5位小森さん、という結果でした。ラッキー7でソフィア経済人倶楽部蟹瀬令子理事に浴衣が当たりました。

5月25日のソフィア経済人倶楽部のゴルフコンペでも何とか1ストローク差でいつも後輩思いの本多さんからベストグロスを譲って頂きありがとうございました。

なお、10月28日(月)毎年恒例の本多さんのスペシャルオリンピックチャリティーゴルフコンペが、名門程ヶ谷カントリークラブにおいて行われますので、皆様奮ってご参加ください。

(田村 隆)